

## 平成27年 新春市長記者会見資料

### 《新年の姿勢》

- ・今年、未年である。羊は群れをなして行動するため、家族の安泰や平和をもたらす縁起物とされている。  
干支に因んで、桑名市全体が「チーム桑名」で一丸となって、さまざまな課題を解決していきたい。
- ・沢山の方の市政への参加により、桑名というまちがより大きく魅力あるチームになれるよう、あらゆる機会を通して積極的なコミュニケーション創りに励んでいきたい。

### (総合計画のスタート)

- ・今年、桑名市の新しいまちづくりの方向性を示す総合計画が新たにスタートする年である。
- ・計画では桑名に関わる全ての人と情報や課題を共有して、様々な問題を解決していく「まちづくり市民力の発揮」と、子どもや孫の世代、これから桑名に住む人たちに引き継げるまちにしていくため「次世代への責任」の視点でまちづくりを進めていく。
- ・基本理念である「本物力こそ、桑名力。」のとおり、このまちの魅力である「本物」を「見つけ出し」「磨き上げ」「大きくしていく」力である「本物力」が、桑名のまちづくりの力「桑名力」となるようオール桑名での取り組みを進めていく。

### (積極的に行政改革に取り組む ～PPP元年～)

- ・平成27年は、積極的に行政改革に取り組む年にしたい。  
厳しい財政状況の中でさまざまな課題を解決しながら、新しい総合計画に基づき事業を進めていくためには、民間との連携による財政負担が少ないスキームの構築など、これまでと違う行政運営のあり方を考えていかなければならない。
- ・行政と民間が役割分担をしながら協力し、民間のノウハウやアイデアを積極的に取り入れていく姿勢を出していきたい。
- ・今年、市民から事業の提案を募集する「提案型公共サービス公民連携制度（仮称）」を導入したい。
- ・健康増進のための施設整備については、積極的に公民連携で課題解決を図っていきたい。
- ・PPP（公民連携）手法の研究として東洋大学と連携していきたい。

### 《新年度に向けて》

- ・本市が財政面において厳しい課題に直面している。  
平成25年度決算では、本市の経常収支比率は97.8%で、前年より悪化し県内でワースト1となった。

- ・この厳しい現状において、平成 27 年度の予算編成では、一般財源の予算総額に上限を設定することで、歳出構造を抜本的に見直すとともに、固定的な経費の削減に努めていく。
- ・「ふるさと納税」や「ネーミングライツ」など歳入確保にもさらに創意工夫を加えながら、安定的で持続可能な財政の実現を目指していきたい。
- ・新しい時代に本市が「選ばれるまち」になっていくには、積極果敢に行政改革に取り組む姿勢が必要である。  
これまでの手法にとらわれない新たな事業手法の模索、民間の皆さんとのパートナーシップによる行政の財政負担が少ないスキームの構築など、大胆な発想で熱意をもって取り組んでいく。
- ・時代の趨勢や社会環境の変化に敏感に対応していくために、「行革マインド」を常に持って一歩ずつでも前に進んでいきたい。

#### (具体的な事業展開について)

- ・桑名を代表するイベントでは、七里の渡跡にある一の鳥居が式年遷宮に伴い 20 年に一度の建替え行事が行われ、御木曳も予定されている。また、全国山・鉾・屋台保存連合会の桑名大会も開催されるので、誘客アップを目指し PR をおこなっていく。
- ・昨年スタートしたブランド展開については、新年度からは市民の皆さんを巻き込んだ、より具体的な全員参加型の事業展開を図っていきたい。
- ・できれば、温泉博覧会のような地域活性化の手法を取り入れて、地元ならではの体験交流プログラムを提供することにより市民の方を始め、市内外の方が桑名の本物や桑名のブランドを学び、感じる機会として、導入の準備に着手したい。
- ・また、桑名の食文化については、全国的に類似状況を調査し、桑名ならではの個性や独創性なりを全国に発信する年としたい。(すき焼きなど)

#### 《主な取組》

##### ○行革

- ・PPP（公民連携）による課題解決
  - ① 提案型公共サービス公民連携制度による市民からの提案募集
  - ② 健康増進施設の公民連携による整備
  - ③ 東洋大学とPPP（公民連携）で連携 — 職員の派遣研修と省インフラ研究会への参画
- ・ファシリティーマネジメントの推進
  - ① 公共施設等総合管理計画の推進
  - ② 出先機関の見直し

##### ○組織の一体化

- ・効率的効果的な組織運営のため部局整備